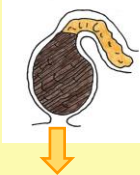


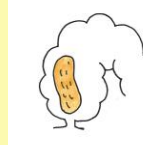
子どもの便秘③ ～便秘症は治療が必要です～

便秘症(5月号のチェックリスト参照)の治療の目標は、便秘の悪循環を断ち切り、快便状態を維持することです。「快便」とは、便意があってトイレで楽に便が出せて、出し切った後すっきりする状態のことです。一日食べた量を一日ですっきり出せるようにすることが理想です。

排便困難(排便をがまんする、排便時に痛みや出血がある)が続く、おにぎり状の大きな便が出るときは、肛門の上の直腸に糞便が多量に溜まって直腸が広がり、直腸にたまり癖がついています(下図)。こうなると生活習慣の見直しや食事療法だけでは便秘は改善しません。放置すると、たかが便秘と思っているうちに病状が進行して経過が長引くことになります。速やかに病院を受診して治療をうけるようにしましょう。



硬便の排泄=
斜線部分
なんとか排便



直腸が拡張したままで、
1日分の便が来ても、壁
を押さないで、便意
が起きない



出しにくい便に
なって、ようやく
便意が起きる

次回は便秘症の治療についてお話しします。

6月の感染症情報

6月に入りRSV感染症やヒトメタニューモウイルス感染症などの呼吸器感染症が姿を消し、夏風邪(エンテロウイルス感染症)、アデノウイルス感染症、溶連菌感染症など高熱が出る感染症が流行しています。6月後半から夏風邪の一種の手足口病やヘルパンギーナも散見されるようになりました。

シリーズ キッズケア・青い鳥がめざす保育 ③

～発達を学び、発達の一步前の活動を知ることで、発達を促す保育を！～

生後7か月ごろ

～欲張りな心が生まれます～



ナンナン ナンナン
いい気持ち
アーアー お母さん
お話ししよう

4ヶ月の頃から目の前のものを見比べ、どちらかを選ぶ力をつけた子どもたちは、この頃にもう一つ欲しいという**欲ばりな心**が芽ばえます。

こっちのおもちゃがいい！
けど、あっちのおもちゃも気
になるなあ

こっちのほうが大きい
からこっちにしよう

目の前におもちゃを2個置くと、見比べて気になる方に手を伸ばしてとります。でももう一つも気になる。これは探索活動の始まりです。「何が好きかな?」「どんな気持ちかな?」と子どもの思いに寄り添いながら、一緒にあそんであげましょう。

はっきりした色が分かるよ
うになったよ。赤や黄色
が好き

“発達子どもの
願いから始まる”
白石正久著より

次回は9ヶ月頃をします。

6月のご利用状況

6月の利用延べ人数は88名、一日平均利用人数は4.4人でした。年齢別では、1歳児が34名(39%)で最も多く、次いで0歳児の23名(26%)、3歳児の14名(16%)の順でした。疾患別では、夏風邪と思われる急性上気道炎が全体の6割をしめていましたが、その他、上記の感染症情報にあるように溶連菌感染症、アデノウイルス感染症などがありました。顔面の「とびひ」で入室されたお子さんがいました。ガーゼなどによる防御処置が困難な「とびひ」の場合、病児保育を利用することも可能です。